

公開講演会のお知らせ

▼令和3年度 森林総合研究所公開講演会「伝えたい！ 森の中の放射性セシウム——10年で明らかになったこと」

事故発生から10年が経過しましたが、福島第一原子力発電所事故により、福島の森林や林業も多大な影響を受けました。森林総合研究所では、事故直後より、さまざまな角度から森林の放射能に関する調査・研究を続けてきました。ただし、事故によって放出された放射性物質のうちセシウム137の半減期はおよそ30年と長いいため、事故の影響はこれからも続くと考えられます。

今回、放射性セシウムの農業への影響と比較しながら森林の放射能汚染に関する森林総研の10年間の取り組みで明らかになったことを紹介するとともに、残された課題の解決のための対策・技術について探ってみたいと思います。

開催日時：2021年10月16日(土) 13時15分～16時20分



葉と枝の切り分け作業の様子



原木から生えるしいたけ



きのご原木林



ヒノキの植栽地でカリウム施肥

開催方法：オンライン開催

YouTube「森林総研チャンネル」
(<https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel>)

●招待講演

「農林水産業・環境への影響」
中西友子（星薬科大学学長・東京大学大学院農学生命科学研究科附属食の安全研究センター 特任教授）

●一般講演

「森林における初期の活動と成果」
金子真司（関西支所 研究専門員）
「事故から10年、森林の放射性セシウムはどうなった？」
篠宮佳樹（震災復興・放射性物質研

究拠点長）

「ホダ木からシイタケへの放射性セシウムの移行」
平出政和（きのご・森林微生物研究領域長）

「樹木のセシウム吸収—土壌の放射性セシウムの影響—」
長倉淳子（立地環境研究領域 主任研究員）

●総合討論

★シヨートムービーも配信予定
森林の放射性セシウムの動きの詳しい解説や、木材、きのご、山菜、水生生物、野ねずみ等に関する最新の研究成果を紹介する動画を特設ウェブサイトで事前公開予定です。

森林総合研究所研究報告

▼論文

2011年の福島第一原子力発電所事故で放出された放射性セシウムのワラビ(*Pteridium aquilinum* subsp. *japonicum*)への移行
清野嘉之、赤間亮夫、松浦俊也、岩谷宗彦、由田幸雄、志間俊弘

ワラビ(*Pteridium aquilinum* subsp. *japonicum*)の生育と、2011年の福島第一原子力発電所事故で放出された放射性セシウムのワラビ中の動態
清野嘉之、赤間亮夫、岩谷宗彦、由田幸雄、志間俊弘

四万十川源流域の漂流水質の特徴
——1999年から2000年にか

◀森林総合研究所研究報告
Vol.20 No.2 (通巻458号)
2021年8月
<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/458/index.html>



けて実施した調査結果——
吉永秀一郎、山田毅、稲垣善之、三浦寛、篠宮佳樹

▼研究資料

温帯地域の天然広葉樹二次林とスギ人工林における有剣ハチ類群集(英文)
牧野俊一、後藤秀章、岡部貴美子、井上大成、大河内勇

森林総合研究所多摩森林科学園の長翅目昆虫とその季節消長
松本和馬

森林生態系内で採取した試料中の¹³⁷Cs放射能の効率的な測定方法の検討：ゲルマニウム半導体検出器で使用する測定容器の選択とその測定誤差について
大橋伸太、赤間亮夫、池田重人、星野大介



P.3



P.3, 8, 16



P.3, 8, 16



P.18



P.3, 8, 14, 16, 18, 20



◀持続可能な開発目標 (SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続的な開発目標 (SDGs) の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/index-r.html>

お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

